

ベニモンカラスジミに関する新発見

福井 順 治*

The First Record of *Strymonidia iyonis* in Central Honshu

Motoharu FUKUI *

本種は1957年に四国の愛媛県血が嶺より発見された種で、近年中国山地の岡山、広島両県からも発見されているが（白水、難波、1973）、近畿以東の分布については本報告が最初である。

筆者は1974年から1975年にかけて、静岡県北西部から長野県南部において、本種の成虫及び卵の採集をする機会を得た。また、得られた成虫の形態に注目すべき点が見られたのであわせて報告したい。

1. 採集記録

成虫	1 ♀	June 16, 1974
卵	40	Feb. 11, 1975

この40卵を飼育したところ1975年5月2日より5月16日にかけて8♂♂、12♀♀が羽化した。

2. 生息地の状況

生息地はクリ、コナラの二次林であるが、食樹があれば、アカマツ主体の樹林や、スギ、ヒノキの植林地においても発見される。

3. 食 樹

食樹はコバノクロウメモドキ *Rhamnus japonica* MAXIM. var. *microphylla* HARA（クロウメモドキ科）であり、四国産、中国山地産の本種の食樹と同じである（若林、太田、1960；白水、難波、1973）。

4. 産卵の状況

1975年2月に観察した40卵と、53個の卵殻（卵の孵化後にも枝上に残っている）についてみると、食樹の短枝と枝との分岐部上側に産みつけられたものが最も多く、約70%を占めていた。1箇所産卵数は1卵の場合が19例、2卵まとめて産みつけられていたのが13例、以下3卵8例、4卵1例、5卵1例、7卵1例、8卵1例であった。

5. 成虫の形態の特徴

当地方産の成虫の羽の斑紋について他産地との詳しい比較はしていないが、後翅裏面外縁沿いの半月形赤紋の内側は外縁に沿って白帯がほとんど出ないことなど、四国、中国両地方産のものと若干のちがいが見られるようである（第1図）。

6. 飼育の記録

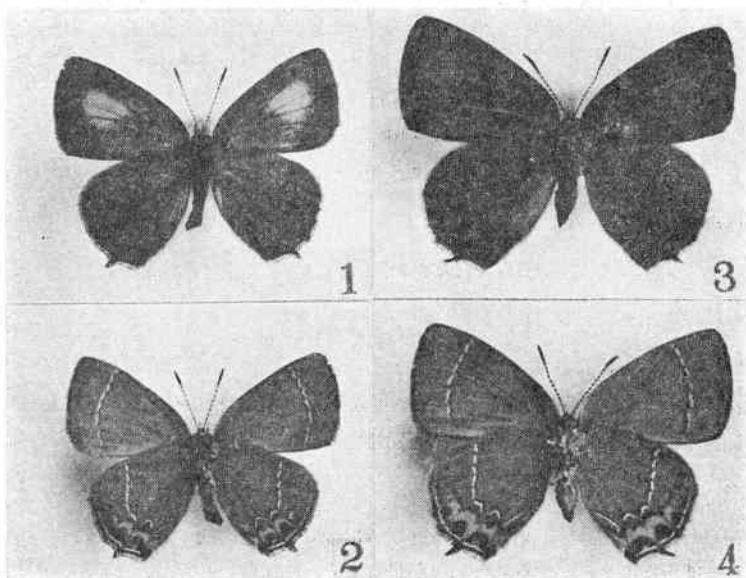
1976年の観察によれば自然状態では3月上旬に孵化するが、1975年に静岡県佐久間町で行なった飼育の記録は第1表のとおりである。

* 静岡県立佐久間高等学校 静岡県磐田郡佐久間町中部683-1

Sakuma Prefectural High School, 683-1, Nakabe, Sakuma-cho, Iwata-gun, Shizuoka Pref.

第1表 飼育記録

孵化日	幼虫期	蛹化日	蛹期	羽化日	雌雄, 頭数
3月11日	37日	4月17日	15日	5月2日	7♂♂
3月11日	40日	4月20日	15日	5月5日	1♀
3月11日	40日	4月20日	16日	5月6日	3♀♀
3月11日	40日	4月20日	18日	5月8日	2♀♀
3月14日	38日	4月20日	15日	5月5日	1♂
3月14日	39日	4月21日	16日	5月7日	3♀♀
3月14日	39日	4月21日	17日	5月8日	1♀
3月23日	40日	5月2日	14日	5月16日	1♀



第1図 ベニモンカラスジミ

1. ♂ May 2, 1975 羽化 (飼育による); 2. 同 裏面; 3. ♀ May 6, 1975
羽化 (飼育による); 4. 同 裏面

Summary

This is the first record of *Strymonidia iyonis* in central Honshu. Ecological and breeding records as well as morphological characteristics of this butterfly in this region are given in this paper.

引用文献

- 白水 隆, 難波通孝 1973. ベニモンカラスジミの一新亜種 蝶と蛾. 23 (34): 65~57.
若林守男, 太田喬三 1960. ベニモンカラスジミの生活史 蝶と蛾. 11: 16~21.